

無病息災願い「両開ほんげんぎょう祭り」を開催

1月20日(日)、橋本炭鉱跡で「両開軽トラ市」も同時開催

□両開ほんげんぎょう祭り



「ほんげんぎょう」とは昔から筑後地方で行われている伝統行事で、全国では「どんど焼き」「左義長」などと呼ばれているものです。青竹や藁で櫓を組み、その中に門松やしめ縄、書初め、古いお守りなどを入れて燃やし、新しい年の無病息災を願います。

両開地区では高さ10mを超える櫓を6基組み上げ、地元の児童が踊りなどを披露。神事後は、それぞれの櫓に一斉に点火し、最後に残り火で餅を焼いて一年の健康を祈ります。

- 日時 1月20日(日)、午前10時～正午
- 会場 橋本炭鉱跡(橋本町)

- タイムスケジュール ▷10:00=投げ餅▷10:10=開式▷10:20=柳南中プラスバンド演奏▷10:30=モグラ打ち▷10:35=両開小児童によるロックソーラン▷10:45=神事▷11:00=点火
- ※天候により、中止もしくは内容などが変更になる場合があります。

問い合わせは、ほんげんぎょう祭り実行委員会(☎72・0819)まで。

□「両開軽トラ市」も同時開催

両開地区では、柳川むつごろうランドや柳川ひまわり園周辺のにぎわい創出を図るため、有明海や干拓地にある地域資源を生かしてさまざまな取り組みを進めています。

その一環として両開ほんげんぎょう祭りに併せ、「両開軽トラ市」を初開催。軽トラックの荷台などで、両開産の農作物などを販売します。

- 時間 午前9時30分～正午
 - 販売品目 両開産農作物や福岡有明のりなど
- 問い合わせは、柳川むつごろう会事務局(☎72・0819)まで。

童謡誕生100年記念 白秋音楽まつりを開催

白秋の残したたくさんの童謡を歌い継ごう

詩人・北原白秋が作品発表の場として、また編者として深く係わり、たくさんの童謡が生まれた雑誌「赤い鳥」創刊から100年が経過しました。この童謡誕生100年を記念し、市内の音楽団体の他、ゲスト団体も迎え、合唱を中心とした音楽まつりを実施します。「この道」や「まちぼうけ」など、子どものころから聞き馴染みのある童謡や唱歌、合唱組曲など、たくさんの白秋作品に触れてみませんか。

- 日時 1月27日(日)、午後1時開演(開場は1時間前)
- 会場 市民会館大ホール
- 入場料 無料
- 出演団体 ▷市内団体=合唱団うぶすな、白秋をう

たうコーラス蘭の会、コール大和、柳川市地域婦人会コーラス花しょうぶ、三橋合唱団なのはな、ジュニアコーラスWing21、白秋の詩歌をうたう朱薬の会、ハンドベルゆりの会、柳川市民劇団くもで座▷ゲスト団体=西南シャントゥール、久留米児童合唱団

問い合わせは、市生涯学習課文化係(☎77・8836)まで。



親子アートワーク ショップがスタート

遊びながら親子でアートを感じよう



粘土をこねるなどして楽しむ親子ら(写真左)と講師の今田さん(写真右)

市は、現代アート作家の今田淳子さんによる「親子アートワークショップ」を実施しています。第2回は、昨年11月29日「土であそぼう」をテーマに正光乳児保育園のピコクラブで行われました。家族で楽しく粘土をこねたり、土と卵の黄身などで自然の絵の具を作り、それを使ってお絵かきしたりしました。

第4回は「米であそぼう」と題し、垂見保育園のわくわくひろばで1月22日に実施します。また、5回目以降も開催を予定しています。

申し込み、問い合わせは、市生涯学習課文化係(☎77・8836)まで。

伝える・伝わる話し方 講座受講者募集

自信を持って話すコツを楽しく学ぼう

市は、式典やイベント、歌謡ステージなどの司会者として活躍する他、KBCラジオ「艶歌にっぽん」でラジオパーソナリティを担当する倉富顕子さんを講師に、話し方講座を開催します。

仕事や地域活動の中で自信が持てる話し方の基本を楽しく学ぶ講座です。

- 日時 2月14日(木)、28日(木)、3月14日(木)、全3回、各回とも午後7時30分～9時
- 会場 市民会館第2会議室
- 講座内容 アナウンス講座の入門編として、基本的な話し方を学ぶ。参加無料
- 対象 高校生以上(20人)
- 募集期間 1月7日(月)～31日(木)
- 申込方法 市生涯学習課文化係へ、電話、ファクス、電子メールのいずれかで申し込み。氏名、住所、年齢、連絡先を伝えてください。

なお、ファクスで申し込む場合は、確認のため同係まで電話を掛けてください。また、18歳未満の申込者は保護者の同意書が必要です。

問い合わせも、市生涯学習課文化係(☎77・8836、FAX74・2707、電子メールbunka-40207@city.yanagawa.lg.jp)まで。

北朝鮮 24年の拉致体験を蓮池さんが語る

人権週間や障害者週間、北朝鮮人権侵害問題啓発週間に合わせ講演会を開催

市は、12月4日から始まった人権週間や障害者週間、北朝鮮人権侵害問題啓発週間に合わせて、12月9日に「人権を考えるつどい」を水の郷ホールで開催しました。

北朝鮮で24年間の拉致生活を経験した蓮池薫さんが「夢と絆～拉致が奪い去ったもの～」と題して講演。蓮池さんは、中央大学法学部3年在学中に拉致され24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされました。現在は新潟産業大学経済学部准教授を務める

傍ら日本各地で精力的に講演を行い、自身の拉致体験や北朝鮮から帰国後の出来事を語っています。

講演で蓮池さんは「拉致行為は拉致された人とその家族の夢と絆を奪う行為。拉致問題で何よりも大切なことは、被害者が日本に帰ってくることです。今なお拉致されたままの人を救うためには政府をはじめ皆さんの理解と協力が必要です」と訴えました。



拉致問題解決を訴える蓮池さん スーパーで啓発チラシなどを配布

大ホールと2つのサブ会場は満席。立ち見ができるほどの参加があり北朝鮮による日本人拉致問題に対する関心の高さがうかがえました。

また同週間に合わせて開催された街頭啓発では、金子市長や樽見議長をはじめ、各団体の役員らが、スーパーマーケットなどで啓発チラシなどを配布。みんなで差別のない社会をつくろうと呼び掛けました。